

令和7年度 第6回和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会 議事録

- 1 開催日時 令和8年2月6日（金） 午後7時00分～午後8時40分
- 2 開催場所 京丹波町役場 1階 111・112会議室
- 3 出席者 (1) 構成員 9名
松本和久教育長、井戸仁委員、河谷尚都委員、原田美希委員、
才村路子委員、大田有次委員、早川公雄委員、川中愛映委員、
森瀧ひろ香委員
(2) 事務局 6名
・教育委員会
岡本教育次長、四方学校教育課長、長尾総括指導主事、
野口学校教育係長
・和知小学校
梅原校長
・和知中学校
船越校長
- 4 欠席者 (1) 構成員 1名
春田貢委員

5 会議の概要

(1) 会長あいさつ

【会長】長期にわたりまして開催してきたこの委員会も第6回を迎えました。今回をもちまして最終になるのではないかと考えております。
お手元には答申（案）を用意していただいておりますので、今日はもう少し最後のまとめというような形で皆さんのご意見をいただきながら、答申（案）としてまとめていきたいと考えている次第です。
選挙も近くてバタバタとしておりますが、事務局の皆さんも非常に精力的に頑張ってくださいましたし、委員の皆さんにつきましてもこの非常に寒く、また遅い時間にお集まりいただき、本当にありがとうございました。これをもって最終になるか、わかりませんが、忌憚のないご意見を皆さんに今日は1人1発言というような形でできたら一言ずつでもお願いして、最終まとめていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(2) 教育長あいさつ

【教育長】井戸会長からもありましたように、第1回は7月17日に委員の皆さんにお集まりいただき、こちらから諮問させていただいて検討が始まりましたが、本日で6回目となります。途中、会長と副会長には11月27日の和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討に係る保護者等説明会にもお世話になりまして、検討委員会としては6回、保護者等説明会1回を加えて、計7回にわたる取り組みをお世話になりました。

この間、特に6回の議論を私なりに振り返りますと、保護者の皆様の声にもしっかりと耳を傾けていただきました。また、他の自治体の様々な事例については、皆様から資料提供の要請があったほか、委員の中からも積極的なご提起がありました。さらに、国の考え方を踏まえて、本当に様々な視点観点から議論を積み重ねていただき、今日に至ったと思っております。そういう点では、ずいぶん深まりのある議論、検討をしていただけたと感じております。

前回の委員会で、小中一貫校を採用した場合というところに少し焦点化して議論をいただき、それを踏まえて本日、答申の最終的な検討をいただくということですが、小中一貫教育の持つメリットに着目すると同時に、京丹波町のとりわけ和知の地域の実情をよく考えていただいた議論がなされたのではないかと考えております。そういった点では、今日、和知地域の将来の学校のあり方、そして、京丹波町にとりましては瑞穂地区の小中学校統合以来の学校のあり方の提言となりますので、これは今後の和知だけではなく、京丹波町の他の地域の小学校、中学校のあり方にも大きな影響を与えるような提言をいただけるのではないかと考えております。大変遅くからの時間ではありますが、京丹波町のこれからの学校の有りようについて、皆様方のご意見を集約いただいて答申いただけるようお願いを申し上げます。

(3) 議事事項

ア 和知地区京丹波町立小中学校のあり方にかかる答申（案）について

- ・【資料-1】について、事務局から説明を行った。（岡本教育次長説明）
- ・和知小中一貫教育校のイメージ（案）について、事務局から説明を行った。（和知小学校梅原校長説明）

○主な意見まとめ

【委員】質問ですが、答申書（案）の1（4）の小小連携と小中連携のところですが、小小連携というのは、和知小と他の小学校という意味だと思っておりますが、小中連携というのはどこを指していますか。

【事務局】今まででしたら和知小学校と和知中学校の連携ではあったんですが、和知

小学校と和知中学校がどこかの学校とということは今はないです。今後、そういった可能性も含めてのイメージをしております。

【会 長】その他どうでしょうか。1点気付いた点があるんですが、特色ある学びのところでイメージ図の中には、④にカヌー体験とありますが、答申書(案)の1(7)③にはカヌーを活用した学習を継続的に実施する機会の確保とあるので、カヌー体験ということだけを捉えると、カヌーを体験してそれで終わりというようなイメージがあるので、カヌーを通した学習というようなイメージを打ち出した方が良いかもしれません。

【委 員】質問です。イメージ図に町内中学校との行事や教科学習・部活動での合同学習(週2～3日)とありますが、時間帯はどうなりますか。給食挟んでとか給食終わった後とかあるんでしょうか。なかなか給食を自校でやるとなると難しいのではないかと思うのですが、移動の時間もあります。オンライン学習ならわかるんですが、子どもにとっても移動時間は負担だと思います。

【事務局】イメージ図については、答申書(案)の1(4)②に「交流の機会を日常的に実施するなど」と記載があるので、それをイメージ図に落とし込みました。これを実現するには様々な工夫も必要だと思います。

【委 員】現在も小学校と中学校の連携教育は行われていますが、保護者アンケートの中には小学生にとっては中学校から先生が来られるのでメリットが大きいかもしれないけど、中学生についてはあまりメリットが感じられないという意見もあったかと思います。いろいろ考えてみますと、小学校に中学校から先生が来て指導いただくわけですから、その子どもたちが中学校課程に入って同じ先生から引き続き指導を受けることは、非常に良い流れだと思います。こうした点を踏まえると、人数は少ないかもしれませんが、きめ細やかな教育を受けられるということは、小中一貫校の大きなメリットであり、中学生に決してメリットがないわけではないと感じております。

【会 長】小中学校の連携について、小学生はいいけど、中学生はメリットがないのではないかと。実際問題やってみたら中学生の上の学年でも非常にメリットがあるということはいろんなところで実証されておりますので、委員さんがおっしゃられるように中学生に決してメリットがないわけではないと私も感じています。連携の方法次第という感じがします。

【委 員】答申書(案)の1(2)のところで、和知小中一貫教育校のイメージ図の中にはこども園の記載があって記載するのであれば、現在、こども園と小学校の連携もされていると思いますので、こども園とも繋がるような文言がイメージ図にもあればいいなと思いました。

【事務局】現在、園小の接続の架け橋カリキュラムを園と一緒に作成しているので、そういうあたりも含めていけば良いのではないかなと思います。イ

メッセージ図に入れる文言は検討させていただきます。

- 【委員】** 答申書(案)に満足してるので特にないんですが、少し感じたのは9年間同じメンバーで過ごして、子どもたちは中学3年生になったら、おそらく高校はどこにしようとするかと思うんです。蒲生野中に行ったお友達がどこの高校に行くかということでお母さんとすごく悩んでいて、その相談を受けたことがありました。とにかく人数がいるところに行きたいと、その女の子は言ったんです。今回の答申書(案)に進学のことに関しては書いてないんですけど、やっぱり中学2年生、3年生になってきたら、受験があります。子どもたちもきちんとした目線で視野を一生懸命できる限り広く持とうとしてるんだと思うけど、本当にもっと広い世界はあるし、人数がいる高校に行きたいとかそういったことではなく、自分の目標に関連してる高校に行きたいと選択できるようになればいいなと聞いていたときは思いました。なので、そういった部分が足りていないのではないかと少し思いました。なかなか難しいですけど人数がいるところじゃなくて、自分が何をしたいのか、だからこの高校に行きたいとなればいいなと思います。
- 【会長】** 僕も個人的にはその意見は大賛成です。子どもたちは人数がいるところと言うんですが、実は違うんですよ。子どもたちはやっぱりそういった目線がまだまだ十分に成熟しないところでそういうことを言ったりするんですよ。そして、結局行って失敗したっていうのが結構見てきたので、委員さんのおっしゃる通りだなと個人的にはすごく感じてます。
- 【事務局】** 説明会のときに子供たちや教員の意見を聞いたりすることがあるんですが、学校でもキャリア教育の中でどのようなところで学びたいかっていうことを全校でやったことがあります。自分たちが学校を選ぶときにはどういったことを基準にするかってやると、やっぱり一定数大きいところの憧れみたいなのは出てくるんですけど、議論を重ねていくと先ほどあったように将来自分が何をしたいのかとか、今ある環境の良さを生かすようなところとか、多様な意見が出てきます。子どもたちなりに単純にその学校の規模とかそういうことで考えるのはちょっと違うなと一定そういう話し合いの中では出てきましたし、子どもたちにも発信していく必要もあるかなとは思っています。今の環境のせいにするのではなくて、自分たちがその中で頑張れることを考えさせるということも必要だと思います。あと、教員の中でもこの会議のことを報告して意見をもらいましたが、例えば実際に中学校同士が統合したところで働いていた教員もおられますし、小中学校が一緒になったところで働いていた教員もおられますし、今お子さんが実際に一貫校に行っておられる教員もいますし、いろんなところのことを知っておられる教員がいて、やっぱり中学校の学習の機会を増やすためには中学校同士を統合した方がいいのではないかと

おっしゃられる教員もいますし、ここならではの学習が大事とおっしゃられる方もいますし、それもいろいろなんです。トータルで言うとやっぱりこの議論とか、保護者の意見と大体似たようなところには落ち着きます。少数意見も踏まえて最終的にどうするかっていうことを考えていくことが大事じゃないかなと教員の中でも出ていました。ちょっと話がずれるかもしれませんが、中学生の学びを豊かにするという点では、小中連携で豊かになる場所もありますし、やっぱり中学校同士の連携をどうするかって大きいポイントだと思います。なので、交通手段は環境として絶対的に大事だと思っていますし、そこは強く教育委員会の方にも働きかけたいですし、実際に中学校同士で何ができるかなって考えたときに、朝から行って給食までに帰ってくるというパターンもありますし、できるだけ早めに給食を食べて午後から行って5、6時間目そして部活を一緒にして帰るというパターンも考えられます。それから丸一日の日は保護者の方をお願いしてお弁当持ちで学校に来るというパターンもあるかもしれません。いろいろなパターンが考えられますし、この答申書もありますので次年度からはモデル的な活動ができないかなと考えているところです。今、先ほどのお話の中でできるかなと思ったことの一つは、3年生は部活を引退すると部活の時間は多くの学校が帰るんですが、京丹波町の中学生は学校に残って勉強するんです。7時間目みたいな形で。そこで教科ごとに受験対策の勉強をしたり、高校の先生に来てもらって授業をしたり、自分たちで自由にやる勉強をやったりしているんですが、例えばそれをお昼から3年生が他校に行って、一緒に受験勉強をやったり、高校選びについて考える時間とかなら作れるかな思いました。いろいろなアイデアがあるので、交通手段や給食のこととか、ハードルはいくつかあるんですけど、おそらく工夫すれば打ち上げ花火みたいな行事じゃなくて、日常的に連携がある程度はできるのではないかと今は思っています。あえて言うならオンラインを使った連携もとは思いますが、実際に集まってすることの意義も大きいと思うので、あんまりそっちに大きく頼りたくないなと個人的には思うんですが、タブレットを使えばできることもあると思うのでそれも組み合わせれば、なお良いかなとは思っています。

【会長】もうすでにいろいろイメージを考えていただいている、非常にありがたいことですね。子どもたちが自分の進路を見つけるということは、中学生に本当できるかというとなかなか難しいことだと思います。実際に私は大学院生を見ているんですけど、大学院に来ているのに4年生のときはどこの都道府県を受けたか聞くと受けてないと言うんです。なぜか聞くとそのときは教員になろうと思わなかったと言うんです。なので、どこでそれに気づいたのか聞くと、ほとんどの子が教育実習で行って初めて子たちと

接して思ったと言うんです。教職の単位を取っているときは本気で思っていないから試験を受けるために願書を出すには教育実習が終わってからでは遅くて出せなかったと言う子が結構います。なかなか大学生になっても自分の進路が自分で決められない。確かに私もそうだったなと思いながら振り返って考えたりします。だから中学生にそういったきっかけを与えるためのキャリア教育なのかなと思います。

【委員】令和12年度に町内の子どもが23%減、和知の子どもが16%減というすごく著しく5年後減少する予想の中なので、他校との連携は必須だとか、保護者のことも考えてスクールバスの配置は絶対お願いしたいと思っていたので、答申(案)に全て盛り込んでくださっていて先ほど満足という話もありましたけど私もそう思って聞いておりました。あとは私もすごく思うのが、私の娘は小学校に通っていますが、先日、他の小学校との連携を来年度からやるというお話も校長先生から聞いて、教育委員会の皆さんが先んじていろんなことをトライアルでやってくださったりとか、先ほどの校長先生のお話もそうなんですけど、日々、保護者として有り難く感じていますし、先生たちのアイデアに驚かされたりという部分があるので、是非ともお願いしたいという思いです。

【会長】何もないところからというわけではないですけど、新しいことをすると100%と言っていいほどハレーションが起こります。当然、全員が賛成するようなものは基本的にはなくて、逆に半分以上が反対するようなものの中にこそ改革があったりします。でも今の現状、今持っている資源で何ができるのか、どう使うのかは知恵を絞るしかないと思います。特に校長先生たちには知恵をガンガン出していただいておりますし、教育委員会の方も全面的に支援をしていくという姿勢がこの京丹波町にはあると感じているので、忌憚のない意見をどんどん言っていただくのが重要かなと思います。特に学校現場におかれましては、コミュニティスクールの学校運営協議会がございますし、そういった公に意見を言えるような場もありますし、吸い上げていただけたらと思います。

【委員】1つだけすいません。私は和知小中学校の発表会を観させてもらってその雰囲気も感じながら、和知に住んでる皆さん自身が和知地域として、こんな子どもを育てたいというビジョンなどが、この保護者アンケートの結果を見てると去年2月のコメントからあまりアップデートされていないことも多かったんで、あまり周知されていないのかなと思うところがありました。和知の皆さん自身ももっと保護者同士のディスカッションの場を持ったりすることで答申の内容もそうですし、教育する環境なんか盛り上がっていくのではないかと思います。そうすることで不満の声もあつたんですけど、自分自身がインクルーシブされて当事者意識が生まれてくると思いますし、答申内容も成果が出てきたりするのではな

いかなと思いました。

【教育長】今、委員さんがおっしゃったように、本来は検討委員会や学校、教育委員会が学校のあり方を決めるのではなく、そこに住んでいる皆さんが「自分たちの地域の学校はこうありたい。」「この地域の学校でこういう子どもを育てたい。」ということが大前提です。その点で、竹野小学校なんかは学校側も努力していますが、地域の保護者の皆さんが「こんな学校にしてほしい。」という熟議が行われています。今、委員さんがおっしゃられたように、このような議論が必要であるということは、今後の学校づくりにおいて非常に重要です。できれば、この答申の中で、「今後の学校を考える際には、最終的にその地域に住む住民と学校や関係者が協力して作り上げていくべきである」という意見を盛り込むことは、これからの学校のあり方を考える上で非常に意義があると思いました。そうでなければ、仮に小中一貫教育校ができて、他所から与えられたものになってしまいかねません。大変関心を持って聞かせていただきました。

【委員】答申書(案)の1(5)に校舎について触れてありますが、今の現状を考えると施設分離型で致し方ないと思います。一方で、施設一体型についても議論してきたところで、できれば将来的にでもそういった形も検討できるような文言を入れていただけたらありがたいと思いました。

【教育長】過去に小学校の設計段階で増築が可能な造りにしてあると聞いたことはあります。

【委員】質問なんですけど、大体、若い子は地方から都会に行ってしまうんですね。なので、税金を都会から地方へ回してもらおうということは教育長から言ってもらえないでしょうか。教育資金を地方へ回してもらって塾などに行かなくても、中学受験をしなくても地域の中学校を終えて、希望する高校や大学に行けるようなシステムができれば、もっと若い子が帰っていて和知に住もうかと思ってくれるのではないかと思うんです。

【教育長】実はつい先日も人口は首都圏には集中するが他は減ってきてるという統計が出た中で、特に町村の首長たちは、今おっしゃったようにこちらから人を送っているという現状がある中で、実は国からの交付金などいろんなものが人口割になっているが、その考え方を直してほしいという強い地方創生の考え方で意見も出ていますし、もちろん畠中町長もそのようなことをいろいろな場所でおっしゃっています。それと魅力ある地域あるいは魅力ある学校にして、都会から移ってきたいと思っていただくことが大切です。このことは保護者アンケートの中にも書いてありますけど、これは持続可能な地域、学校にするためには、おっしゃっていた通りです。今、京丹波町でも移住定住をやっていますが、和知地域にも少しスポットを当ててというような検討がされると聞いています。なので、この魅力ある学校作りが、和知地域に魅力を感じて来ていただく一つ

のきっかけになればいいのかなと思っています。

実は、今朝報告を受けたんですが、今、京丹波町の第3次総合計画の審議会で審議をされて、その検討のために町内のあらゆる階層にアンケート調査を実施されたようです。教育次長はその審議会に参加をしておりますので、その資料提供を受けました。その中で、中高生の意識調査があったんですが、「京丹波町が好きか」という質問に約10%前回調査から増えていたのと、「今後、京丹波町に住みたいか」という質問についても前回調査から増えていたと説明を受けました。この間、小学校、中学校、高校もそうですが、地域のことを学ぶ探究的な学習を進めていることと無関係ではないと分析していると報告を受けました。

【事務局】 審議会に出席いただいている委員さんからも会議の中ではありませんでしたが、終わってから探究的な学びとか地域と一緒に学んでる効果がきつとここに表れていると話しておられましたし、中高生の意識調査の結果から地域に愛着を持った回答をされてる割合が非常に高かったという印象です。そういった結果になったのは日ごろ学校や行政も一緒になって頑張っている成果かなと受け止めています。

【会長】 私が教員で須知高校にいたときよりも自分たちのふるさとを思うような子たちが増えてきたのかもしれない。それは結局、小中学校でのキャリア教育などの取り組みがあるからこそ、そういう芽が出てきている気がします。この教育の世界は、何かをしたからといってすぐに成果が出るというものではなくて、じわじわとしか出ないので、それでも出てきているということはすごく良いことだなと思います。

【委員】 答申(案)を読まさせていただいて児童・生徒という言葉をもう少し入れた方がいいかなと個人的に思いました。ちょっと難しく感じてしまったので、例えば今使っているところで言うと答申書(案)の2の「小中一貫教育校への移行時期について」で「児童・生徒数の減少が進行している」と使われています。マイナスイメージではないかもしれないけど、個人的にはあまり良いイメージをもてなかったもので、例えば答申書(案)の1(6)の「中学校までの9年間を通じたものになるよう児童・生徒の活動の機会を確保すること」というように文言をちょっと入れてみたりしてはどうかと感じました。子どもたちのために考えたことなので「児童・生徒(子供たち)」という文言をいれると答申(案)として深みが出るかなと個人的に思いました。あと、先ほど縦型のイメージを校長先生から説明していただきましたが、僕は見てすごくわかりやすかったです。こういったものがあると文字だけだとわかりにくいし、保護者の方もイメージ図として示されることでわかりやすくていいなと思いました。

【事務局】 今、委員さんがおっしゃられたことはすごいことだなと思って聞いていました。この答申(案)の1のところで「なお、小中一貫教育校への移行を

進めるにあたっては、児童・生徒の教育条件の改善の観点を中心に捉え、」と書いてあります。これは文部科学省が言っていることなのですが、まさに先ほどの発言は的確に当たっており、すごいご意見だと感じました。

【委員】質問ですが、今年、和知中学校に進学せずに他の小中一貫教育校などに進学する子どもはいますか。

【事務局】その年によって変わりますが、今年度は14名のうち5名が和知中学校には進学しません。その内訳は3人が特別支援学校で、あとの2名は附属中学校になります。園部が1人に福知山が1人です。毎年あるわけではないです。去年はありませんでした。

【委員】複式学級になる予定はありますか。

【事務局】和知小学校、中学校ともに複式学級になる予定はありません。学級の形態は変わりません。

【会長】その他、ご意見ございませんか。貴重なご意見いただきましてありがとうございました。

答申書については、本日いくつかの補足意見も出ましたので、これから微調整が入りますが、概ね内容についてはご賛同いただけたということで事務局と副会長と私で最終案を作成し、委員の皆さんにもお配りをして私が答申書を提出するという形でいきたいと思っております。

イ 今後のスケジュール（案）について

今後のスケジュールについて、事務局から説明を行った。（岡本教育次長説明）

【事務局】今後のスケジュール（案）について、口頭でご説明させていただきます。ただいま全体的にご賛同いただいたことを踏まえ、本日いただきましたご意見も調整のうえ、改めて委員の皆さんへご報告させていただきたいと考えております。そして、具体的な日程といたしましては、2月20日に町長も出席される総合教育会議の開催を予定しております。この会議は、町部局と教育委員会が連携して学校の政策的な事項を決定する組織となっています。小中学校の学校協議会から提出された上申書をもとに、この検討委員会を設置することも総合教育会議で決定されました。予定通りいきましたら、その会議で答申書を提出し、答申内容のご報告を行います。また、答申内容に基づく今後の進め方についてご意見をいただき、ご了解を得られましたら、令和8年度以降の取り組みについても具体的に検討を進めてまいりたいと考えております。ここまで、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

【委員】答申の内容は、私たちの意見をすり合わせた結果の答申だと思いますし、個人的には非常に内容の濃い議論ができたと思っています。ですが、検討委員会に出席されていない方から見られると、強引に議論が進められた

と感じておられる方もあるかも知れません。そういったことから、答申のまとめ方については、先ほどもあったように、地域の人や保護者、学校が一体となって作り上げていく姿勢が求められると思います。1つ1つの意見に対し、しっかり耳を傾け、歩み寄った形でのまとめ方にして欲しいと思いました。

【事務局】 この委員会の議事録については、後日ホームページで公表する予定です。今はまだ確認作業の途中であり、具体的な進展はありませんが、いただいたご意見を曖昧な形で答申に反映させたわけではないことをしっかりご理解いただけるような形にしたいと思っております。また、この答申が最終ゴールではなく、現時点での一つの到達点と捉えております。今後もさまざまな情報を提供し、多くの方にご理解いただけるような進め方を目指してまいります。

(4) 閉会あいさつ

【副会長】 第6回最終のあり方検討委員会ということで、長時間にわたりお世話になり、ありがとうございました。約7ヶ月間の間、委員の皆様には結論を急ぐことなく慎重に審議いただき、その結果として本日の答申案が出来上がったと思っております。あり方を検討するにあたっては、「できるだけ和知の地域から小学校、中学校を失いたくない」というような意見や、一方では統合という意見もある中で、さまざまな思いを汲み取りながら出来上がった答申案ではないかなと思います。私の個人的な思いとしては、学校がなくなってしまうことに対するネガティブな思いもありましたが、今日改めて小中一貫教育校として、学校が別々ではない新しい教育内容がすでに検討されているということで、大変嬉しく、わくわくする気持ちでおります。本日の答申案は、一つのゴールであると同時に、新たなスタートでもあると思います。教育委員会や学校の先生方にはご苦勞をおかけすることとは存じますが、私たちも期待しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。長期間にわたり、会長をはじめ委員の皆さん、校長先生、そして教育委員会松本教育長、事務局の皆さんに大変お世話になりましたこと感謝申し上げ、挨拶いたします。ありがとうございました。

[閉会：20時40分]